



股関節痛でお困りの方は いらっしやいませんか？

私はこれまで京都大学医学部附属病院とその関連施設で20年以上にわたり、人工股関節置換術に関連する研究と、股関節疾患に対する手術治療をおこなってきました。2500例以上のあらゆる高度変形を含む股関節変形に対する人工股関節置換術に加え、低侵襲の骨盤骨切り術や、大腿骨頭壊死症に対する成長因子、間葉系幹細胞※を併用した骨移植術、さまざまな股関節疾患に対する股関節鏡手術を数多くおこなってきました。人工股関節置換術はあらゆる外科手術の中で、最も患者満足度の高い手術の一つであり、股関節痛に悩む患者さんにとって救世主のような手術となっています。但し、患者さんに本当に満足して頂く為には、痛みなくきれいに歩けるようになることが重要であり、その為人工股関節置換術では正確な脚長補正を行い、手術侵襲を最小化させるようにしています。また、若くして股関節痛に苦しむ患者さんは少なくありません。痛みの原因を的確に診断し、将来的な見通しと適切な治療方法を提示して患者さんに寄り添う治療をおこなっていく方針です。股関節痛に苦しむ患者さんの来院をお待ちしております。



※間葉系幹細胞

体に自然に備わっている体性幹細胞で、骨細胞・軟骨細胞、脂肪細胞、神経細胞、幹細胞などさまざまな細胞に分化できるといわれている細胞です。

後藤 公志 プロフィール

1995年京都大学医学部卒。2023年4月1日付で近畿大学整形外科主任教授に就任し、4月よりPL病院整形外科で毎週水曜日に股関節専門外来をおこなっています。